

◆学校・家庭生活に関する調査（概要）

1 調査の目的

令和5年4月にこども家庭庁が創設されたことを受け、「こどもまんなか」社会を実現することを目的に本調査を実施しました。

- 2 調査期間 小学生（4年～6年）、中学生 令和5年1月16日から20日（タブレット端末）
高校生相当 令和5年1月4日から18日（郵送・e-kanagawa）

3 調査対象及び回答者数等

学 年	対象者数	回答者数	回答率
小学生計	3,881人	2,959人	76.2%
中学生計	3,436人	2,491人	72.5%
高校生相当	4,638人	1,122人	24.2%
総数	11,955人	6,572人	55.0%

4 集計結果 ※問の()は高校生相当（以下「高校生」）の質問番号

(1) 問9（問13）家のことで困っていることが「ある」と回答した人数と割合

学 年	全回答数	「ある」との回答数	比率
小学生	2,959人	215人	7.3%
中学生	2,491人	202人	8.1%
高校生	1,122人	117人	10.4%

(2) 問9（問13）家のことで困っていることが「ある」の自由記述の概要

小学生	きょうだいとの喧嘩。仲が悪い。
	両親が喧嘩ばかりしている。
	父親が怖い、殴られる。母親が口うるさい、叩かれる。
	勉強・受験が大変。勉強しないと怒られる。
	病気で心配な家族がいる。母親がたくさん働いているので心配。
中学生	両親の仲が悪い。離婚問題。
	兄弟（姉妹）と仲が悪い。
	学校の成績や勉強・進学のこと。
	勉強する場所がない。お金がない。
高校生	家族が病気でその手伝いがある。生活が制限される。
	両親の離婚問題。家族が仲が悪い。家族との関わり方に疲れる。
	父親のDV・モラハラ行為等。家族の顔色を常にうかがってしまう。
	お金がない。定期代・学費が足りない。塾に行けない。
	うつ病、統合失調症、アル中等、家族の精神疾患。
自分一人で落ち着ける場所、時間がない。	

家の中で困っていることが「ある」との回答が小中学生で8%前後、高校生相当では10%あり、その内容は「家族間の不和」、「学業」、「家計」、「家族の病気」に大別される。

(3) 問9 (13)「家のことで困っていること」とのクロス集計

問2 (問4) 学校生活等で困ること		宿題忘れ、忘れ物が多い	遅刻や休みが多いのでわからない授業がある	友達と話しが合わない、相談できなかつたりする	
小学生	ある (N= 215)	92人 (42.8%)	15人 (7.0%)	72人 (33.5%)	
	ない (N=2744)	716人 (26.1%)	65人 (2.4%)	406人 (14.8%)	
中学生	ある (N= 202)	95人 (47.0%)	17人 (8.4%)	49人 (24.3%)	
	ない (N=2289)	658人 (28.7%)	88人 (3.8%)	246人 (10.7%)	
高校生	ある (N= 117)	27人 (23.1%)	8人 (6.8%)	41人 (35.0%)	
	ない (N=1005)	167人 (16.6%)	29人 (2.9%)	160人 (15.9%)	
問3 (問5) 学校が終わってからの過ごし方		家の掃除や食事の準備をする	一緒に住んでいる人の話しを聞いたりお世話をする	自分のお小遣い等を得るためにアルバイトをする	
小学生	ある (N= 215)	32人 (14.9%)	17人 (7.9%)	/	
	ない (N=2744)	457人 (16.7%)	132人 (4.8%)		
中学生	ある (N= 202)	40人 (19.8%)	2人 (1.0%)		
	ない (N=2289)	297人 (13.0%)	29人 (1.3%)		
高校生	ある (N= 117)	10人 (8.5%)	1人 (0.9%)		25人 (21.4%)
	ない (N=1005)	81人 (8.1%)	11人 (1.1%)		132人 (13.1%)
問6 (問10) 家の生活であてはまること		一人でご飯を食べることが多い	自分のことより一緒に住んでいる人を優先している	家の中にいると気持ちが落ち着かない	
小学生	ある (N= 215)	28人 (13.0%)	56人 (26.0%)	44人 (20.5%)	
	ない (N=2744)	154人 (5.6%)	452人 (16.5%)	82人 (3.0%)	
中学生	ある (N= 202)	53人 (26.2%)	21人 (10.4%)	52人 (25.7%)	
	ない (N=2289)	281人 (12.3%)	227人 (9.9%)	75人 (3.3%)	
高校生	ある (N= 117)	34人 (29.1%)	9人 (7.7%)	21人 (17.9%)	
	ない (N=1005)	145人 (14.4%)	55人 (5.5%)	41人 (4.1%)	
問7 (問11) やりたいこと、欲しいもの		勉強を教えてもらえたり、落ち着いて勉強ができる場所	ゆっくりとねること	安心できる大人とおしゃべりや相談ができること	
小学生	ある (N= 215)	40人 (18.6%)	83人 (38.6%)	45人 (20.9%)	
	ない (N=2744)	376人 (13.7%)	1,095人 (39.9%)	296人 (10.8%)	
中学生	ある (N= 202)	60人 (29.7%)	127人 (62.9%)	34人 (16.8%)	
	ない (N=2289)	552人 (24.1%)	1,335人 (58.3%)	191人 (8.3%)	
高校生	ある (N= 117)	52人 (44.4%)	64人 (54.7%)	26人 (22.2%)	
	ない (N=1005)	247人 (24.6%)	492人 (49.0%)	136人 (13.5%)	

(4) ヤングケアラーについて

ヤングケアラーの定義を「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと」とした場合、一緒に住んでいる人にあてはまるもの～疾病等により家事等を担うことが難しい、ケア等を必要とする人との同居の有無～をヤングケアラーの状態にある可能性があるかと捉え、問5（問9）「一緒に住んでいる人にあてはまる」の結果を本市におけるヤングケアラーの状況及びその傾向を捉える上での参考とする。

問5（問9）「一緒に住んでいる人にあてはまるもの」を一つ以上選択した数

学 年	全回答数	一つ以上選択した実数	比率
小学生	2,959人	669人	22.6%
中学生	2,491人	538人	21.6%
高校生	1,122人	220人	19.6%

問5（問9）「一緒に住んでいる人にあてはまるもの」（複数回答）

	病気で寝ていることが多い人がいる	3カ月以上ケガして動けない人がいる	身の回りの手伝いが必要な家族がいる	仕事で夜いないことが多い	土日も仕事で家にはいないことが多い
小学生 N=2959	48人 (1.6%)	21人 (0.7%)	114人 (3.9%)	334人 (11.3%)	304人 (10.3%)
中学生 N=2491	30人 (1.2%)	12人 (0.5%)	105人 (4.2%)	191人 (7.7%)	324人 (13.0%)
高校生 N=1122	14人 (1.2%)	7人 (0.6%)	40人 (3.6%)	50人 (4.5%)	144人 (12.8%)

身の回りの手伝いが必要な家族がいるとの回答した割合が小学生、中学生、高校生とも4%前後となっている（※複数回答数 小学生・中学生1.2、高校生1.16）。

問5（問9）と問9（13）「家のことで困っていること」とのクロス集計

		病気で寝ていることが多い人がいる	3カ月以上ケガして動けない人がいる	身の回りの手伝いが必要な家族がいる	仕事で夜いないことが多い	土日も仕事で家にはいないことが多い
小学生	ある N= 215	5人 (2.3%)	3人 (0.9%)	17人 (7.9%)	36人 (16.7%)	39人 (18.1%)
	ない N=2744	43人 (1.4%)	18人 (0.6%)	97人 (3.5%)	298人 (10.9%)	265人 (9.7%)
中学生	ある N= 202	7人 (3.5%)	1人 (0.5%)	21人 (10.4%)	32人 (15.8%)	39人 (19.3%)
	ない N=2289	23人 (1.0%)	11人 (0.5%)	84人 (3.7%)	159人 (6.9%)	285人 (12.5%)
高校生	ある N= 117	5人 (4.3%)	1人 (0.9%)	6人 (5.1%)	12人 (10.3%)	26人 (22.2%)
	ない N=1005	9人 (0.9%)	6人 (0.6%)	34人 (3.4%)	38人 (3.8%)	118人 (11.7%)

「家のことで困っていることがある」と回答した者と「ない」と回答した者とは、「仕事で夜いないことが多い」、「土曜日や日曜日も仕事で家にはいないことが多い」の選択肢に差がみられる。

問5（問9）「一緒に住んでいる人にあてはまるもの」とのクロス集計

問2（問4）学校生活等で困ること		宿題忘れ、忘れ物が多い	遅刻や休みが多いのでわからない授業がある	友達と話しが合わない、相談できなかつたりする
小学生	一つでも選択 N= 669	236人 (35.3%)	34人 (5.1%)	151人 (22.6%)
	それ以外 N=2290	572人 (25.0%)	88人 (3.8%)	327人 (14.3%)
中学生	一つでも選択 N= 538	197人 (36.6%)	43人 (8.0%)	71人 (13.2%)
	それ以外 N=1953	226人 (11.6%)	18人 (0.9%)	224人 (11.5%)
高校生	一つでも選択 N= 220	54人 (24.5%)	20人 (9.0%)	74人 (33.6%)
	それ以外 N= 902	140人 (15.5%)	17人 (1.9%)	127人 (14.1%)
問3（問5）「学校が終わってからの過ごし方」				
		家の掃除や食事の準備をする	一緒に住んでいる人の話を聞いたりお世話する	自分のお小遣い等を得るためにアルバイトをする
小学生	一つでも選択 N= 669	163人 (24.4%)	61人 (9.1%)	
	それ以外 N=2290	326人 (14.2%)	88人 (3.8%)	
中学生	一つでも選択 N= 538	111人 (20.6%)	13人 (2.4%)	
	それ以外 N=1953	226人 (11.6%)	18人 (0.9%)	
高校生	一つでも選択 N= 220	43人 (19.5%)	4人 (1.8%)	60人 (27.3%)
	それ以外 N= 902	48人 (5.3%)	8人 (0.9%)	97人 (10.8%)
問6（問10） 家の生活であてはまること				
		一人でご飯を食べることが多い	自分のことより一緒に住んでいる人を優先する	家の中にいると気持ちが落ち着かない
小学生	一つでも選択 N= 669	72人 (10.8%)	146人 (21.8%)	46人 (6.9%)
	それ以外 N=2290	110人 (4.8%)	362人 (15.8%)	80人 (3.5%)
中学生	一つでも選択 N= 538	131人 (24.3%)	81人 (15.1%)	41人 (7.6%)
	それ以外 N=1953	203人 (10.4%)	167人 (8.6%)	86人 (4.4%)
高校生	一つでも選択 N= 220	72人 (32.7%)	20人 (9.1%)	28人 (12.7%)
	それ以外 N= 902	107人 (11.9%)	44人 (4.9%)	34人 (3.8%)
問7（問11）「やりたいこと、欲しいもの」				
		勉強を教えてもらえたり、落ち着いて勉強ができる場所	ゆっくりとねること	安心できる大人と雑談や相談ができること
小学生	一つでも選択 N=669	111人 (16.6%)	229人 (44.7%)	114人 (17.0%)
	それ以外 N=2290	305人 (13.3%)	879人 (38.4%)	227人 (9.9%)
中学生	一つでも選択 N=538	160人 (29.7%)	322人 (59.9%)	59人 (11.0%)
	それ以外 N=1953	452人 (23.1%)	1140人 (58.4%)	166人 (8.5%)
高校生	一つでも選択 N=220	100人 (45.5%)	148人 (67.3%)	56人 (25.5%)
	それ以外 N=902	199人 (22.1%)	408人 (45.2%)	106人 (11.8%)

5 考察

今回実施した調査は「こどもまんなか」社会の実現に向けて、子どもが抱えている困り感を把握し、その困り感の解決に向けた施策を検討することを目的としている。

家のことで困り感を抱えていると回答した子どもは小学生で7.3%、中学生で8.1%、高校生で10.4%おり、年齢があがるにつれて困り感は増加していく傾向がみられる。

その内容は「父母の喧嘩、離婚問題」「きょうだいと仲が悪い」といった「家族間の不和」、「勉強が大変」「学校の成績」などの「学業」が加わり、さらに「親が入院して収入が減った」「お金が足りない」「アルバイトすることを親から求められる」といった「家計」や「親がうつ病、統合失調症」「親がアル中」「情緒不安定なきょうだい」といった「家族の疾病」と複雑化していく。

「一緒に住んでいる人にあてはまるもの」の選択肢を一つ以上選択した小学生は22.6%、中学生で21.6%、高校生となる。

「家のことで困っていること」と「一緒に住んでいる人にあてはまるもの」それぞれに対して「学校生活等で困ること」、「学校が終わってからの過ごし方」、「家の生活であてはまること」とクロス集計を行った。

どちらの群も学校生活等では「宿題忘れや忘れ物が多い」「友達と話しが合わない、相談できなかったりする」に差がみられ、家庭生活では「ひとりでご飯を食べることが多い」に差がみられた。

「家のことで困っていることがある」と回答した群では「家の中にいると気持ちが落ち着かない」の回答に差がみられた。

「一緒に住んでいる人にあてはまるもの」の選択肢を一つでも選択した群では学年があがるにつれて「遅刻や休みが多いのでわからない授業がある」に差がみられ、「家の掃除や食事の準備をする」「自分のことより一緒に住んでいる人を優先する」に差がみられたことからヤングケアラーとの関連が伺える。

「やりたいこと、欲しいもの」とのクロス集計では、どちらの群も「勉強を教えてもらえたり、落ち着いて勉強ができる場所」、「ゆっくりとねること」、「安心できる大人とおしゃべりや相談ができること」に差がみられた。

先行研究等において「ヤングケアラー本人は自覚がない場合も多い」との見解があるが、「一緒に住んでいる人にあてはまること」と「家のことで困っていることがある」や「家にいると気持ちが落ち着かない」とのクロス集計結果には大きな差がみられないことから同様な傾向が伺える。

今回の調査結果から、ヤングケアラーの傾向にある子どもたちが一定数いるとともに、家のことでの困り感を抱えている子どもたちも相当数おり、学校生活においても家庭生活においても課題を抱え、孤独を感じていることが伺える。

学校や家庭とは別に落ち着いて過ごすことができる時間や勉強に取り組むことができる環境、心を許すことができる信頼できる大人との出会いを求めているといえる。

子どもたちの抱える悩みや思いに寄り添うことができるハード、ソフト双方からの支援策が求められる。